学校番号	T3017

令和８年度　学校設定教科

教科	（学）チャレンジ	科目	（学）異文化理解D	単位数	１単位	年次	４年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

現在、多くの外国籍の方が日本に居住しており、グローバル化が急激に進んでいます。より多様な思想や文化を学び、それらを自らの生き方に反映させていくことが必要となります。教室での座学だけでなく、実際に異なる文化を持つコミュニティ（在日外国人コミュニティ、海外の現地社会など）に飛び込み、理論だけでなく実践として異文化を理解することを目的とします。自分の価値観が「世界の中の多様な価値観の一つ」であることを知り、グローバル社会で求められる柔軟性、判断力、そして多様な人々との共生意識を養いましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
グローバルな市民として必要な国際的な法規や人権の概念、および異文化間マネジメントの基礎を習得し、多様な人々が混在する場での自身の役割を明確に説明できる。
【思考力、判断力、表現力等】
これまでの体験を統合し、自分とは全く異なる価値観を持つ他者と協働するための「自身の指針」を言語化でき、社会の多様性を維持・発展させるためのアイディアを発信できる。
【学びに向かう力、人間性等】
社会人・職業人として、国籍や文化的背景に左右されず公平かつ尊重の心を持って他者と接し、多文化社会を支える担い手として生涯学習し続ける姿勢を確立する。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	海外研修やフィールドワークの体験内容、及びそれに付随する異文化に関する知識を正確に整理し、異文化理解の成果をレポートや成果物として明確に表現できている。	異文化体験から得られた自身の固定観念の打破や、多様性に対する洞察を論理的に考察し、説得力のある表現で自らの進路や社会との繋がりを見出そうとしている。	海外研修やフィールドワークにおいて、積極性をもって他者と交流し、文化的背景や習慣を学ぶ意欲が強くみられる。また、異文化特有の課題に対して粘り強く対応しようとする姿勢がみられる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
集中講座	事前学習	・訪問先の文化(歴史、習慣、社会構造)に関する基礎知識のインプット(ミニレクチャー) ・異文化コミュニケーションの基本スキル(非言語、傾聴)の学習とロールプレイング。 ・パスポート取得について	a: 国際的な人権感覚や共生の在り方について、自身の言葉で体系的に定義し説明できている。 b: ロールプレイングにおいて、リーダーとして異なる意見を持つメンバーをまとめ、合意形成を図る表現ができる。 c: 最上級生として、これまでの学びを後輩や周囲に伝えるための準備に意欲的に取り組んでいる。	学習ワーク等	レポート等の自己表現課題	取り組み姿勢の観察
	海外研修・フィールドワーク	・コミュニティの歴史や生活、文化施設を見学し、コミュニティの構成員と簡単な交流を試みる。 ・異文化が日本社会にもたらす影響と共生について、体験を通して考える。	a: フィールドワーク先の歴史的変遷と、それが現在の文化形成にどう影響しているかを深く理解し記述できている。 b: 体験を通して見出した社会の多様性を、自身の将来の職業や生活にどう反映させるか、一貫性のある判断を下せている。 c: 複雑な社会状況に対しても安易な結論を出さず、相手を尊重しながら粘り強く対話を継続している。	学習ワーク等	レポート等の自己表現課題	取り組み姿勢の観察
	事後学習・発表	・研修やフィールドワークの体験を振り返り、個人レポートを作成する。 ・異文化交流で学んだ「多様性の受容」と「グローバルな視点」を、将来の進路にどのように活かすかを明確にする。 ・成果発表会(プレゼンテーション)を実施し、全生徒と共有する	a: 4 年間の学びの集大成として、自身の異文化理解の変遷と今後の展望を網羅したレポートを完成させている。 b: 発表において、多文化共生社会のリーダーとしての自覚を込めた、力強いメッセージを発信できている。 c: 卒業後も多様な人々との関わりを持ち続けようとする、強い意志と具体的なアクションプランを提示している。	レポート等の自己表現課題	レポート等の自己表現課題	取り組み姿勢の観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度